

## 指定認知症対応型共同生活介護事業者自己評価表

事業者名	グループホームゆう&あい向陽（2階）	評価実施年月日	平成19年4月25日
評価実施構成員氏名	管理者 宮野 友美 介護職員 植木 裕子 介護職員 高橋 昭子 介護職員 塚田 竜也		
記録者氏名	宮野 友美	記録年月日	平成19年5月20日

（平成19年4月版）

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの母体である法人の理念を掲げてきたが、地域密着型サービスとなり、地域や利用者のニーズに添えるようにと、スタッフ全員で理念の作成を行った。	○	今後も、ニーズや事業所の状況が変化した場合には、スタッフ全員で考えていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットに掲示し全てのスタッフが実現にむけて行動している。		会議や普段の会話時などに意見を交換しあい、日常的に理解を深めている。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホームの見やすい所に明示し、入居見学の際などにわかりやすく説明している。	○	全てのスタッフが理念を常に意識し支援を行う事により、日常的に説明が行えるようにしていく。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	限られた方々の来所は見られたが、「気軽に」とまではなっていない。	○	日常的な付き合いはもちろんのこと、気軽に立ち寄れるような行事や企画を立てもっと多くの方々に訪問して頂けるようなホーム作りを行っていく。
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入り総会に参加したり、地域の方にボランティアとして行事に参加して頂いたりと交流を深めている。	○	自治会が行う行事への参加も積極的に行い、より一層交流を深めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域への技術、知識の還元をどのようにすべきか検討中。	○	同一敷地内にある居宅介護事業所との連携をはかり、知識を活かし高齢者の住みやすい環境作りに貢献していきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価された内容を再検討し今後の課題として揚げ、時折り見直しを行い、改善に向け取り組んでいる。	○	定期的な会議等でも意見交換を行い、サービスの改善・向上に向け取り組んでいく。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの向上と質の確保のため、運営推進会議の開催を準備中である。	○	2ヶ月に一回の会議で様々な情報の交換をしより良い暮らし作りに活かしていきたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者に関する報告以外でも何か特別なことがあれば随時相談し密に連絡を取り合っている。		サービスに関することでもわからないことがあれば確認し質の向上に努めている。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在のところ権利擁護事業や成年後見人制度を活用している方がいなく、制度の理解はしているがより深く学ぶ必要がある。	○	今後の会議の場等で学習会を開き、より知識を深めていきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で利用者に対する接し方をチェックしあい虐待が行われない様注意を払っている。	○	会議の場などで、高齢者虐待防止法について学ぶ機会を設け、より知識を深めていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前にパンフレットでの説明を行ったり、面談時に詳しい説明をすることで十分な理解を頂いている。	不安や疑問点については随時相談頂き対応している。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置する他、随時意見・苦情に対応できるような体制をとっている。	苦情や相談の第三者窓口も提示により紹介しており遠慮なく相談いただけるよう配慮している。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族来所時に日々の生活ぶりや変化などを毎度報告するようにしている。	○ ご家族の面会時にはもちろんの事、定期的に近況報告のたより等を送付していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置する他、随時意見・苦情に対応できるような体制をとっている。又日常的に面会時等を利用し意見がないか家族と話しをする機会を設けている。	苦情や相談の第三者窓口も提示により紹介しており遠慮なく相談いただけるよう配慮している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度ミーティングを設け、利用者の事や運営に関する事等、広く意見を出し合っている。	日常的に職員が意見を述べやすい雰囲気を作るように心がけている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況の変化、要望に対応が出来る様常に話し合い、必要時には勤務の調整を行っている。	職員の勤務体制や、臨機応変な対応について、よく話し合いながら調整を継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	出来る限り環境を変えずに馴染みの関係を切ることを怠らないよう配慮している。		業務上仕方のない異動の際、ダメージを少しでも軽減できるよう現職員との交流を密にとったり、新しい職員との関係作りに皆で支援している。
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員各々の段階に応じた外部研修に参加し、研修で得た知識を他職員に報告し共に学んでいる。		定期的なグループホーム部会を開催し、他ホームと学習会を開いたり、段階に応じた研修の参加を実施している。
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を設立したがほとんど活動できていない。	○	研修などで同業者の方と学ぶ機会があり、その際情報交換をしたりしているが、今後は定期的な協議会を開催し情報交換の場作りに努めたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者、主任も含め職員相互での日常的に相談など気兼ねなく話し合える雰囲気が出来ており、職員の親睦の機会も設けている。		根本的な部分で解消出来ない事もあるが、少しでも解消出来る様、相談し易い雰囲気作りを行っていく。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、職員各々の勤務状況を把握し、各職員からの意見を吸い上げた上で評価しており、評価が向上心につながっている。		向上心を持って働けるように、今後も配慮した対応を続けていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまでの期間には、極力面談を多く持つようにし、不安感を取り除くように努めている。	事前に本人と話しをすることにより馴染みの関係を作り入所による混乱を防げるようにしている。
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	話しやすい雰囲気を作り、求めている事を把握するように努めている。	会話を多くもち、不安に思うことから要望までなんでも話せる関係作りを行っている。
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な情報提供をして頂き、なにが必要かを見極め利用者にあったサービスが受けられるよう支援している。	必要な支援を受けられるようグループホームに限らず他の事業所とも連携して対応している。
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心して入られる雰囲気と関係作りを行うために事前に本人と会いお話する機会を設けており、利用前から馴染みの関係を築き上げることが出来るよう工夫している。	ご家族とも密に連絡と取り合いより良いケアを行えるよう相談しながら支援している。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常的に一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、時には職員の悩みの相談にのっていただいたりと支えあっている。	家族のような関係作りを目指し、互いに助け合いながら生活をしている事の意識を持ってもらえるように支援を続ける。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に状態報告を行うと共に家族からの意見、要望を聞き、家族と一緒に本人の生活に反映が出来る様な対応をしている。		引き続き家族とのコミュニケーションを大切に し、相談の出来る雰囲気を作り対応していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族は気軽に面会しており、本人との時間を大切にして頂いており、入所前より、本人・家族共に笑顔が増えた。		日常の会話で利用者をご家族について話されていたことを本人の代わりに伝え、気持ちが通い合う関係作りを支援している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人と自由に交流されており、連絡もお互いに取り合っている。又、遠方の友人との関係も継続しており、贈り物をする際には職員と品物を一緒に選んだりと楽しみを共有し支援している。		来客時には、コーヒーやお菓子なども用意し各居室でゆっくりと過ごして頂けるよう配慮している。
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の係わり合いは深まっている。時には衝突する事もあるが、職員の介入により孤立すること無く、互いに気遣いあい生活されている。		和やかな場となるよう、引き続き対応方法を工夫していく。
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了してもいつでも相談頂けるよう十分な説明を行い、よい関係を続けている。		他施設や支援センターとの連携をとりながら情報交換を行っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者からの日常的な会話等を参考にし、ミーティング等で話し合いを行い意向の把握に努めている。	把握が困難な場合には家族に意向を伺ったり、常に本人の立場になって考えるようにしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者からの日常的な会話や家族からの情報提供等を基に把握に努めている。	今後も普段の会話の中から個々の情報を得ると共に、家族からも情報提供をしていただき、把握に努めていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	全てのスタッフが日誌や申し送りなどから様々な情報を共有し一人ひとり把握するよう努めている。	利用者一人ひとりに合わせた介護をするように心がけている。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護する側の立場のプランではなく、利用者本位のプランであるよう、本人や家族の希望や意見を取り入れ、反映させながら介護計画を作成している。	利用者の状態を把握し家族と相談しながら、利用者の満足のいく生活実現に努めている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にケース会議を開催して計画を立案し、評価、見直しを行っている。更に状態の変化時には随時検討を行っている。	本人・家族・必要な関係者とその時に応じた対応の仕方を検討し、計画書に反映させている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌には行動のみの状態記入ではなく、精神的な動きの記入も行っている。又、個別の記録に記入する事により、一連の流れを読み取る事ができる。		日誌は1日の流れを記入し、誰が見ても状態の変化が分かる様に記載し、プラン作成時に活かしている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用状況に応じご家族と相談の上、医療機関と連携をはかり、ターミナルに向けたケアを実施している。		移送サービスの活用もしており利用者や家族の希望に応じ柔軟に対応できるよう努めている。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	自治会の方にボランティアとして行事の参加を促し、良い成果をあげている。		様々な行事でボランティアに参加頂きより多くの方々の協力がえられるような計画を立てていきたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要のある時には、他のケアマネジャーに相談を行うこともあるが、日常的になってはいない。	○	サービスの選択肢を増やすためにも、地域の他のケアマネジャーやサービス業者と話し合いを多く持つ必要がある。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ地域包括支援センターと協働しているとは言えないが、今後必要に応じて対応が可能となるよう、運営推進会議や日々の相談事で活用しコミュニケーションをはかっていきたい。	○	協働する事により、専門職としての知識を活用し新たな視線で利用者の課題や希望を見出しプランに反映させ、より良い生活となるよう支援する。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		<p>今後も、本人と家族の意向にそった医療機関に受診できる様支援し、通院時に気軽に相談できる関係作りに努めていきたい。</p>
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		<p>指示や助言を受けより良い介護に生かしていく。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>現在は准看護師が常勤しているがケアに至っては全職員で健康管理を行い、必要に応じてDrと報告・相談のもとケアを実施している。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>今後も利用者が入院した際、定期的に面会を行い状態把握を行うと共に、御家族や病院関係者と連携を取り合っていきたい。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>本人の意思を尊重しホームでの最期を希望された場合には近隣の訪問看護事業所を活用するなどの対応も行っている。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>医療面でできないケアも存在するため多方面の事業所とも連携をとり利用者が最期の時まで望むケアを受けられるよう支援していく。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>入居前後の変化については御家族へ報告、相談等を密に行っている。又、移り住む際の本人のダメージを極力少なくする為に、移り先の関係者に対し家族同意の元、情報を詳しく伝えている。</p>		医療、介護保険サービス関係者への迅速な行動や連絡、面談を持ちながら情報交換、協議を行っている。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーを損ねない様声掛けや対応に気をつけ、記録等個人情報は人目のつかない場所に保管している。</p>		一人ひとりの尊厳を重視し、プライバシーの保護に努めていきたい。
51	<p>利用者として話し合いを行い希望にそった形で生活が出来る様又、自己決定出来るように適切な声掛けを行って。</p>		利用者本人の意見を尊重し、納得した生活が送られる様支援をしていきたい。
52	<p>利用者一人ひとりのペースに合わせその日の状態に応じた支援を行っている。</p>		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、利用者一人一人のニーズに合った支援をしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>自己決定した服装を優先し髪型も希望をとり入れ結ぶ等支援している。又、希望があれば、望みの理・美容院を利用するよう支援している。</p>		引き続き個別に支援してゆく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		役割を分担し、楽しく行えている。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		誕生日には個々に好きなものでお祝いしているが、毎日のおやつも利用者と一緒に楽しみながら手作り出来る様取り組んでいく
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		排便状態を確認しコントロールしている。極力、下剤を使わず排便されるよう水分補給や運動を取り入れている。
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		本人の状態や希望をとり入れ、入浴支援を行ってゆく。
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		睡眠状態を把握し、夜眠れないからと言って安易に薬に頼らず、日中の過ごし方を工夫している。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		今後も一人ひとりの生活を楽しんでもらえる様支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理を希望される方はご家族同意のもと行っている。又、管理できない方に対しても一緒に買い物に出かけ購入の手助けを行っている。		必要物品や好みの買い物にでる機会を作り、本人の意思を引き出し、希望の買い物ができるよう支援している。
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	時節や個人の状態に合わせて、可能な限り戸外に出かけられる様支援している。		重度な方にも、積極的に声掛けを行い支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	春には花見、秋には菊祭りのご家族と共に出かける機会を作り支援している。		一人ひとりの希望に対応した外出が叶えられるよう支援していく。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望時に対応を行っている。		本人の意向を重視し、今後も継続していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限はなく、いつでも訪問していただけるよう配慮している。来所時はお茶やコーヒーなどで持て成し、居心地よく過ごして頂けるよう気を配っている。		気軽に来所できる雰囲気作りを行い、ご家族のみならずご友人の来所も叶えられている。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わず、安全に向けたケアの為、職員全員で常に話し合いを行っている。		家族や本人と相談の上、ベット下にマットを置く等工夫をし、見守りの強化の元、事故のないよう配慮している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		<p>不審者防止策として時間帯は決めているが日中の出入りがほとんどの為不便はない。ご家族の方にも理解頂いている。</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		<p>プライバシーに配慮しつつ、常に様子を把握出来るように、職員同士互いに声を掛け合うようにしている。</p>
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		<p>変更や移動がある場合は申し送り等で都度職員が把握できるよう努めている。</p>
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		<p>リスクを常に頭におきながら、利用者一人ひとりの状態を把握し注意深く見守りを行う事で、事故を未然に防いでいく。</p>
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		<p>緊急時対応マニュアルを作成し活用しているが、全職員が実際の場面で活かせるように、こまめに訓練を行い技術の向上に努める。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>避難訓練等の実施を検討する。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	御家族に本人の状態報告を行い、転倒、転落等起こりえる状況を説明し、口頭で同意をいただいている。		今後も御家族と話し合い連携を密にしていきたい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常的に各入居者の状態に注意を払い観察を行っている。又、バイタルチェックを定期的に行う事により普段の状態を把握することができ、異常があった場合も記録に残し、申し送りにより引き継ぎを行っている。		入居者の状態の観察を常に行うと共に変化、異常時等迅速な対応を行う。
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、処方箋を確認し薬の目的や副作用等の理解をこころがけ、受診の際に薬が変更になった場合には確実な申し送りを行っている。症状に変化があった場合、記録に残し医療機関に情報提供を行っている。		服薬により変化があれば細かく記録に残している。
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	運動可能な入居者には、介護計画書に盛り込み取り組んでいる。また排泄チェック表の活用と、水分・食事の摂取状態の把握により、出来るだけ薬に頼らずスムーズに排泄が出来るように支援している。		各利用者の状態を把握しながら排泄調整をしている。
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	出来るだけ自力で行える様支援しているが、自力では困難な場合は声掛け、一部介助を行い日常的に支援している。		状態に合わせ、義歯を夜間管理する等行っている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの状態を把握する為、水分チェック表、食事チェック表の活用、主治医の指示のもと、個別で栄養ドリンクを摂取する等、一人ひとりの状態に応じた支援を行っている。		個々の状態を把握し必要な栄養分を摂れる様、嗜好品を取り入れたり食事の形態を工夫するなどして取り組んでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防マニュアルを作成、実行している。		手洗い・消毒の声掛けを行い徹底した感染予防に努める。
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所・調理用具など使用の度に洗剤で洗い、流水で洗い流している。台所用品は漂白除菌を行っている。		食器等使用後は必ず洗剤を使用し、台所用品の漂白除菌を徹底している。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ご家族や近隣の方が親しみやすく感じていただけるよう、玄関周りや建物の周囲に工夫をする等、努力をしているが建物の構造上難しいところもある。		プランターを玄関周りに設置したり、敷地内に畑を作り様々な種類の作物の栽培をしており、近隣の子供さんが気軽に立ち寄られている。
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の構造上、設備面では家庭的とは言い難いが、装飾を施したり、季節を感じとっていただける様な行事を行ったりと工夫をし、居心地の良い空間となるように心がけている。		不快な音や光がないよう配慮し、車椅子の方も皆と一緒にゆったり過ごせるよう狭いスペースの中でも工夫して対応している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各利用者が自由に居間や居室で過ごされている。		個々の状態にあった対応をし、意思を尊重した上で誘導や声掛けを行っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		<p>本人の家具を持参する事により、安心し落ち着いて過ごされている。又、入居者が場所の見当識に混乱が起きた場合、馴染みの箆笥や仏壇を見て落ちつく事が多い。</p>
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		<p>各居室の調節も適宜行っている。</p>
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している</p>		<p>出来るだけ自立した生活を送れるように、個々のレベルに合わせて支援し、安全が確保されるよう工夫している。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		<p>一人ひとりのわかる力を把握し、状態によってはさりげない声掛けを行い混乱や失敗を少なくするよう工夫している。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		<p>利用されているそれぞれの方に体験談を聞き、参考にしながら取り組んでいる。</p>

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの意向を掴んでいる。 ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが暮らしている。 ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいに見られる。 ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが出かけている。 ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが過ごせている。 ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが暮らせている。 ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと出来ている。 ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が生き活きしている。 ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが満足していると思われる。 ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが満足されていると思われる ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

#### 心と心の絆を大切に

- ・ その人がその人らしく、笑顔のあふれる生活を支援します。
- ・ 喜怒哀楽を共に、支えあう関係を築きます。
- ・ 地域に根ざし開かれたグループホームを目指します。
- ・ 利用者・家族・地域の方々との関係を大切にします。

グループホームゆう&あい向陽の理念とし、職員一同、実現にむけ努力しております。